



光成明浩社長

BUSINESS ZOOM UP
備後燃糸(株)
 福山市芦田町福田872 TEL.084-958-3355

「燃糸」は、複数の糸を組み合わせることで一本の糸にする。糸の異なる糸を組み合わせることで強度を増したり、独特な機能を生み出す。その取り合わせは「無限大」といえる。備後燃糸(福山市芦田町福田872)は1927年創業。以来、燃糸加工一筋に事業を営んできた。光成明浩社長は和燃糸の独自ブランドを立ち上げると、伝統に頼るだけでなく新たな分野を開拓しようという知恵を絞っている。

創業以来、燃糸加工一筋に 伝統守りつつブランド化やリサイクルにも注力

【受け身の姿勢から脱却】

日本三大絹の一つ「備後絹」に代表されるように、福山市は昔から繊維産業が盛ん。同社が立地する芦田町はかつて旧庄名郡だったが、同郡内には現在の新市町や駅家町の大部分も属しており、繊維産業の一大産地となっていた。1927年創業の同社もそんな伝統を引き継ぎ、間もなく100周年を迎える。

50歳の光成明浩社長は、三九歳の時に社長に就任した。「と言っても、(就任の)翌日には40歳に、三〇代最後の日でした」。ちなみに就任日は7月1日。同市の市



備後燃糸本社

制施行記念日でもある。

燃糸の加工は素材産業で、取引先からの受注を待つで製造するスタイルが業界の主流。「こちらから営業するという発想があまりない」という。注文を受けても、自分たちが加工した素材がどのような最終製品になるかは分からないケースが大半だ。光成社長はそんな受け身の姿勢を変え、取引先に提案する営業スタイルにできないかと模索してきた。

受注に当たっても工賃は相手の求めに応じてざるを得ず、価格設定で主導権を握れない。「国内に約一〇〇〇社の燃糸加工業者があるとして、99.9%は受け身で事業をしている」と話す。家族経営の事業者も少なくないため、そのようなスタイルでも事業は成り立つが、先行きという点では必ずしも明るくない。

「これまでのやり方は尊重しながらも、受注一辺倒でなく製品の企画段階から参加し、自分たちから積極的に意見を出せるような形も取り入れたかった」と光成社長。そうした考えの下、2016年に立ち上げた和燃糸の新ブランドが「備後」だ。

【和紙糸使い独自製品】

「備和」は、和紙から作られた同社オリジナルの糸。今までにない素材を求めた結果、和紙に行き着いたという。薄く細く切った和紙を左右にひねりつつ、一本の糸にする。ひねる方向や回数組み合わせる素材によって強度や機能が変わってくる。自然素材を用いるので環境にも優しい、サステイナブル(持続可能)な製品だ。

和紙糸の衣類は吸水性や速乾性に優れ肌になじむ心地。地元メーカーのシーズや、大手作業着、作業用品販売企業が扱う春・夏用の靴下にも採用された。靴下の包装紙には「備和」のロゴマークもあしらわれた。「自分たちが作った糸がどんな製品になったのかが分か



和紙糸ブランド「備和」



工場内での作業風景

り、従業員にも励みになった」

5月に開催されたG7広島サミットでは、福山産のデニム生地を使ったトートバッグが、各国首脳をはじめ関係者に記念品として贈られた。生地の素材の一部には同社の燃糸が使われている。「本番直前に知らされた。大変うれいことです」。素材を提供した事業者の名が表に出ることはないが、サミットを縁の下から支えた。

2025年に福山市で開催される「世界バラス会福山大会」に合わせ、市内の事業者が記念グッズの制作に取り組んでいる。同社にも「砕いたバラの華などを練り込んだ紙で糸が作れないか」といった問い合わせがまだ具体的な形にはなっていないものの、バ

ラ会議の盛り上げに因縁することができたなら、会社としても誇らしいですね」。

【リサイクル事業に参画】

同社は今年、廃棄される紙資源や間伐材を燃糸にして、衣類など他の商品にリサイクル事業を手掛ける一般社団法人アップサイクル(大阪府)に参画した。

アップサイクルは、日清紡グループのニッシントリア・岩尾やネスレ日本、凸版印刷、神戸市といった大手企業や自治体で構成。破棄される資源や食品の残りかすのリサイクル率向上を推進するためのプラットフォームを目指している。

同社に声がかかったのは、「備和」で示した技術力が評価されたため。「参画している事業者はいずれも環境問題に熱心。これまでお付き合いがなかった企業とのコラボは大変光栄です」と光成社長。10月には加盟企業全体での顔合わせも予定されており、これから事業が本格化する見通しだ。

「環境関連の事業は、短期間で成果が出るものではない。次の世代も見据えて、長い目で取り組まなければならぬ」

光成社長は燃糸加工を「糸のお見合い」と称する。糸の組み合わせ

せが無限にある中で、最適なものはどれなのか。長年培った技術力で見極め、強度や機能に優れた燃糸を生み出す。「和紙糸にとどまらず、もっと幅広い素材にブランドを広げていきたい」と意気込む。



同社の燃糸はジーンズなど多彩な製品の素材に採用される

会社概要

- 社 名 備後燃糸(株)
- 代 表 者 光成明浩社長
- 所 在 地 福山市芦田町福田872
7720-1264
- 設 立 1927年
- 事業内容 燃糸加工業
- 資本金 2500万円
- H P <https://www.birnen.co.jp>